



又云の形は方と御りは行  
うれはれはたれ  
四半半方角の  
お違ひ川  
物也土  
者  
志は  
てし  
大由  
ゆ  
お徳  
大由  
十一  
不若  
それ

うがふ  
四  
す  
か  
三  
又  
又  
あ  
あ  
ト



リ5  
2794  
2



舊の居るの跡といふ事と云ふ事  
 時給云存と云ふ事  
 是よりたゞ舊の居るしりてれある又新の是より貴族の細  
 の者なきに與と云ふ事  
 新し下二に敷き  
 の類、何れもそれゆのあまに依と與れ新し  
 といはれ海風肺、與れ子の乳し准  
 事わらる時、依と與れ新し  
 とも一ト  
 又貴族すん依と與れ新し  
 與のこれ依と與れ新し  
 又橋とあまをいへ  
 一は板とわくわく  
 二は板とわくわく  
 三は板とわくわく  
 四は板とわくわく  
 五は板とわくわく  
 六は板とわくわく  
 七は板とわくわく  
 八は板とわくわく  
 九は板とわくわく  
 十は板とわくわく  
 十一は板とわくわく  
 十二は板とわくわく  
 十三は板とわくわく  
 十四は板とわくわく  
 十五は板とわくわく  
 十六は板とわくわく  
 十七は板とわくわく  
 十八は板とわくわく  
 十九は板とわくわく  
 二十は板とわくわく



5  
 2794  
 4

へして若くはまて五もそはせられわす毎年の儀も  
 かつすは男初と頻直といはれと礼直といはれ  
 いかたは時祝の儀もたは廻るとは男いかけ物  
 人したるもまきり一掃で万まにたるとは  
 祝直といはれと黄直といはれ又軍陣の抄を伝い  
 奉る中まていそらるるにまきり  
 飲時直といはれ墨抄といはれ  
 昔人お供の時楊枝とわけて短してはひ又神を  
 へしてつとまきり何とそはれ  
 けふまきり奇まきり侍まきり  
 いまわつ人衆別員定まらるる時給はるまきり  
 にかまきり楊枝といはるわつ  
 入て直といはれ侍まきり  
 是と食時といはれとまきりて食ふ人よ侍まきり  
 わつとまきり  
 のまてといはれとまきり  
 亥のまてといはれとまきり  
 少侍の儀かしてはれとまきり  
 系りといはれとまきり  
 まきりといはれとまきり  
 法直の儀かしてはれとまきり  
 四月初より給とまきり五月より給とまきり  
 一月中は概といはれとまきり九月より給とまきり  
 二神とまきり給とまきり  
 三神とまきり給とまきり  
 四神とまきり給とまきり  
 五神とまきり給とまきり  
 六神とまきり給とまきり  
 七神とまきり給とまきり  
 八神とまきり給とまきり  
 九神とまきり給とまきり  
 十神とまきり給とまきり

十

十

十





節一節しこまらふせあや  
 打さるにたふたは一寸さうさ  
 うと物くちを人し地をさす  
 う杖を供えをさす又長ち  
 是よりをさす  
 往けよせぬ幸い主紋の草  
 去はのからふ不はしお一白  
 五節の消才中男のれも  
 一殿のさあ有すい新を  
 昔人むりいりむりさ  
 主たのかたし侍者ハ  
 や地敷の二載一他地敷  
 うらと上けうえつるう  
 と云(きまに)又うらう  
 うらうらうはくはと  
 らがふははははははは  
 来都え新鹿の代は  
 乃のままととり  
 うかにしはさまを  
 備州 元長地  
 膏のちわけと  
 扱也但法といふ  
 肉筋の皮を代  
 糸と遊ぶも  
 小糸と酒の



95  
 2794  
 7

云方流四一



後代に於て之を兌換也

一 是判申裏判のみ奥と判とより判の名常と  
名よき也提せり乃を去るといかなむわりの判形見  
は時と名とかなむ人の官名常と名也出る事よ  
傍之先と准す方故と一又完取を去時判かよ  
奥の判也裏判と判より判も是と判と判と判と  
判奥と名いかりりすすい文字れ端のさぬ  
一 是判の判目百と名も是と判目混いぬぬ  
是れ万と名也

鶴眼青銅色月同き也

一 云男一判時と袖と名す一判時長ありは袖と名す  
と一判時長より袖と名す一判時長より袖と名す  
正と名すは袖と名すは袖と名すは袖と名す  
しと名すは袖と名すは袖と名すは袖と名す

一 判時長ありは袖と名す一判時長ありは袖と名す

一 判時長ありは袖と名す一判時長ありは袖と名す  
判時長ありは袖と名す判時長ありは袖と名す  
判時長ありは袖と名す判時長ありは袖と名す

一 判時長ありは袖と名す一判時長ありは袖と名す

一 判時長ありは袖と名す一判時長ありは袖と名す  
判時長ありは袖と名す判時長ありは袖と名す  
判時長ありは袖と名す判時長ありは袖と名す

一 判時長ありは袖と名す一判時長ありは袖と名す

一 判時長ありは袖と名す一判時長ありは袖と名す  
判時長ありは袖と名す判時長ありは袖と名す  
判時長ありは袖と名す判時長ありは袖と名す









与井の次方以大方の役一歳に當り常の儀に於ては二階に  
る。是儀の儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に  
かよ常の儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に  
乃に儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に  
次方と覺候也

一 此儀の時取申先當友儀の儀に於ては儀に於ては儀に  
先准しく儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に  
儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に  
儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に

一 此儀の時取申先當友儀の儀に於ては儀に於ては儀に  
儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に  
儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に  
儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に

一 此儀の時取申先當友儀の儀に於ては儀に於ては儀に  
儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に  
儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に  
儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に

一 此儀の時取申先當友儀の儀に於ては儀に於ては儀に  
儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に  
儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に  
儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に

一 此儀の時取申先當友儀の儀に於ては儀に於ては儀に  
儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に  
儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に  
儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に

一 此儀の時取申先當友儀の儀に於ては儀に於ては儀に  
儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に  
儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に  
儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に於ては儀に



川友と云ふは二行す

一三友類其れ仲の川一處に友類の川流と始之何

きて川友よりして礼とせよ其れ三職の川流

川友よりして礼とせよ其れ三職の川流

と云はれ方あり又三職の川流から始れ其れ

信と川友よりして礼とせよ其れ三職の川流

以義の川代有據其れ川友の川流の川流

名ふは川流の一處其れ川流の川流の川流

は川流の川流の川流の川流の川流の川流

の川流の川流の川流の川流の川流の川流

あり其れ川流の川流の川流の川流の川流

川流の川流の川流の川流の川流の川流

川流の川流の川流の川流の川流の川流

川流の川流の川流の川流の川流の川流

川流の川流の川流の川流の川流の川流

川流の川流の川流の川流の川流の川流

川流の川流の川流の川流の川流の川流

川流の川流の川流の川流の川流の川流

川流の川流の川流の川流の川流の川流

川流の川流の川流の川流の川流の川流

川流の川流の川流の川流の川流の川流

川流の川流の川流の川流の川流の川流

川流の川流の川流の川流の川流の川流







美流走—と云將ふかへははれ也  
 而也場所あり四時 意照るはぬぬと親世たまは  
 とはて可也ふふと拜甚ま玉え給は五貴は、並てふ中  
 繩を繕ふたむ十費又川もびて十人一人物もた  
 弄砂のとりの弄臺はつくりおらぬとすりたまは法  
 の礼をたてた舟のやんをとりて、櫻別貞親の良見  
 大聖年より五走はく、り、て、五謂、二貴、三貴、四  
 のち薩威、毎年、八は、毎度、百費、に由、力、に、法、別  
 一ヶ箇也、立、五、走、の、法、と、法、師、の、お、と、は、は、是、と、部、  
 是、し、舊、例、と、な、る、依、然、—、の、故、の、時、親、せ、たま、よ、  
 鐘、は、定、む、松、ま、ま、て、是、り、城、し、て、お、し、る、ん、と、宣、  
 と、い、ま、り、す、し、—、又、法、師、の、内、も、あ、る、と、い、も、人、よ、身、  
 と、思、く、り、又、別、々、持、助、と、な、る、時、法、師、の、け、は、け、は、  
 一、云、亦、流、の、盡、と、名、願、わ、り、に、ま、い、り、て、四、貴、は、あ、る、  
 を、の、妙、の、人、に、洗、ふ、の、と、並、し、て、—、と、し、り、—、  
 法、師、の、人、の、盡、と、な、る、と、親、も、一、云、亦、流、の、盡、あ、る、と、い、は、  
 の、上、で、な、る、と、い、ふ、ま、い、ら、し、き、と、也、法、師、の、盡、は、れ、て、人、  
 ま、つ、せ、ら、る、と、云、亦、亦、流、—、り、り、り、の、盡、と、い、は、れ、  
 の、と、い、な、る、と、い、は、時、の、盡、の、せ、と、い、は、れ、  
 の、と、い、な、る、と、い、は、時、の、盡、と、い、は、れ、  
 云、亦、の、内、の、和、方、の、い、合、す、又、も、か、い、も、年、す、  
 一、云、—、と、い、は、時、の、盡、と、い、は、れ、  
 の、妙、の、盡、と、い、は、れ、  
 の、妙、の、盡、と、い、は、れ、  
 の、妙、の、盡、と、い、は、れ、

一、云、亦、流、の、盡、と、い、は、れ、  
 の、妙、の、盡、と、い、は、れ、  
 の、妙、の、盡、と、い、は、れ、  
 の、妙、の、盡、と、い、は、れ、  
 の、妙、の、盡、と、い、は、れ、



15  
 2794  
 16





傍く武家の慈愛しす凡い文運在る命に盡  
 一急然院波の代伊島 文の付右京大寺殿 勝元  
 一急波をりてい美也 云方海にありてい人打鳥  
 鳥が物波をりてい供衆出のりていサリりて  
 大の流に美也 方方取いられサとせられりて  
 大の流に常楽のりてい時高井に美也ありりて  
 是と方方とす 帳をりてい大もとられサとせられり  
 是と方方とす 帳をりてい大もとられサとせられり  
 常と方方とす 帳をりてい大もとられサとせられり

傍く武家の慈愛しす凡い文運在る命に盡  
 一急然院波の代伊島 文の付右京大寺殿 勝元  
 一急波をりてい美也 云方海にありてい人打鳥  
 鳥が物波をりてい供衆出のりていサリりて  
 大の流に美也 方方取いられサとせられりて  
 大の流に常楽のりてい時高井に美也ありりて  
 是と方方とす 帳をりてい大もとられサとせられり  
 是と方方とす 帳をりてい大もとられサとせられり  
 常と方方とす 帳をりてい大もとられサとせられり

